



414
A 456



夫レ官ヲ設ケ職ヲ分ツハ政府其國家ヲ修治スルノ機軸
 ニシテ賢ニ任シ能ヲ使ヒ各所長ヲ尽サシムヘキハ固ヨ
 リ言ヲ俟スト云凡其位置處分ノ當否ニヨリ凡百政治ノ
 隆替興廢ニ関涉ス故ニ政府其開創ノ時ニ臨テ廣ク古今
 ニ攻索シ研究考覈シテ以テ確然不拔ノ制ヲ設立セスシ
 ハアル可ラサルナリ蓋シ國家ノ官職アル猶人身ノ四支
 アルカ如シ四支其位置ヲ宜フシテ而シテ全人タルヲ得

新々ニ太政廳ヲ建造シテ諸官省ヲ合併スヘキ議

大正十一年四月贈月



官職其處分ヲ得テ以テ全國タルヲ得ル今人身若シ其四
又ノ位置ヲ宜クセサレハ乃チ不具ノ人ニシテ能ク其身
体ヲ保護スル能ハス國家若シ官職ノ處分ヲ誤ラハ乃チ
不典ノ國ニシテ又能ク其人民ヲ修治スルヲ得ス然リ而
シテ官職ノ處分其當ヲ得ルノ道其國体政憲ニ從テ必
ク異同アリト雖モ要スルニ首尾相通シ脉絡相貫キ制置
法ニ稱フテ偏重ノ患ナク節度規ニ從テ阻隔ノ弊ナカラ
シムルニアリ是故ニ百官其事務ヲ督勵シテ自他障礙ハ

ルヲナク本体確立シテ細用隨テ奉ル各相連綴接續シ
以テ大綱ノ統理ニ歸ス猶四支ノ行走提携シテ其心身ノ
用ニ供ナル如シ今夫レ若シキ其持セント欲スル者ノ取
テ其心ヲ服事セス足其行ント欲スル所ニ赴テ其心ニ適
從セスンハ人豈チ其心身ヲ調護スルヲ得可ンヤ維新
ノ際幸ニ從前ノ陋習ヲ排除セラレ開闢ヲ廢シ賢才ヲ擢
シテ新々ニ三職ヲ置キ八局ヲ設ケ各相事務ヲ分課シテ
内外凡百ノ庶政ヲ總理ス然リ是レ兵馬ノ間倉卒ニ開創

ニシテ制度未タ其當ヲ得タリト云可ラス故ニ戊辰ノ夏
其制ヲ改メ太政官ヲ分ツテ七官トシ議政官ノ上下局ヲ
設テ立法ノ事ヲ掌リ行政官ヲ置テ庶政ヲ執行シ其他神
祇會計軍務外國并法諸官皆各其掌管ノ事務ヲ分課シ更
ニ各府藩縣ヲシテ承テ之ヲ地方ニ施サシメ官九等ニ分
ツテ其職任ノ制限ヲ定メ公論ヲ會議ニ取リ智識ヲ世界
ニ求メテ以テ國權ヲ確立シ

皇基ヲ振興セントス其制度規律整然觀ルヘキニ似タリ

猶ホ夕綏穩ナラストシテ去秋更ニ其制ヲ変革シ

大寶ノ古典ニ法トリ斟酌折衷以テ今日ノ政体ヲ改定セ
リ尔来茲ニ一年猶ホ夕其成績ヲ見ルニ至ラス紀綱却テ
統理セハ庶政却テ振興セス官省或ハ其制度ヲ殊ニシ府
縣各其規律ヲ同クセス或ハ切ニ新規ヲ創立シテ之ヲ制
スルヲ得ス或ハ徒ニ旧制ニ因依シテ之ヲ督スル能ハズ
甚シキハ其掌心ハル一局一廳ヲ以テ各一區ノ政体ヲ調
護セントスルニ至ル於是乎氣脈阻梗政令紛更人其方向

ラ一ニセス侏儒雜冗遂ニ統一幹理ノ術ナキニ至ラント
人是レ豈其設法ノ適宜ヲ得ルト云可ンヤ夫レ方今ノ政
体太政官諸官省ノ上ニ位シテ庶政ヲ總判スト雖凡官省
其他ノ諸局ニ於テモ又各長官アリテ其事務ヲ管理セ
シム既ニ之ヲ分置シテ又各其事務ヲ附課ス隨テ之ヲ制
限ヲ定メテ以テ章程ヲ立スンハ勢紛雜替延ノ弊ナキト
能ハス然リ而シテ今日漢号ノ際日新ノ運ニ會ス凡百ノ
事物徒ニ古典旧格ヲ以テ之ヲ處分セラル能ハス是故ニ

事日ニ其旨ヲ異ニセサルヲ得ス接物月ニ其制ヲ更
ルヲ得ス若シ能ク章程ヲ明ニシテ之ニ事務ヲ委任スル
正其處置舉措ノ際ニ於テ終ニ太政官ノ權カヲ分離シテ
政柄多岐ニ出ルノ患ナキ能ハス又或ハ之ヲ上操シテ假
スニ決裁ノ權ヲ以テセサレハ百事交互錯乱シテ沈滯替
失ノ弊ヲ免カレヌ夫レ然ラハ之ニ任スルト任セサルト
均シク其弊害ナキト能ハス是レ他ナシ其分置ノ制巨キ
ヲ得サレハナリ曰ク然ラハ如何シテ可ナランヤ是レ宜

ク新タニ一太政廳ヲ建造シテ諸官省其他各局ニ至ル迄
總テ之ヲ合併シ其事務ヲ分附シテ之ヲ處置セシメ受ニ
衆議公論シテ無用ノ官不急ノ職ヲ減却シ各相調合和同
シテ主課ヲ調理ヤシメ而シテ太政官之カ首領ニ位シテ
萬機ヲ總裁統轄ス夫レ然ラハ庶政親シク審判スルヲ得
百事立ロニ辦理スルヲ得ン國是定マリ方向明カニ政權
一ニ歸シ威柄共ニ合シ之ヲ其職ニ任シテ分歧ノ患ナリ
之ヲ上裁ニ決シテ紛雜ノ弊ナシ下問文書ノ繁ヲ省

達申牒ノ勞ヲ減ス如此シテ始テ國體ノ確立庶政ノ振
ヲ期スヘキナリ依テ其弊害ノ由縁ト拯救回護ノ方略ト
ヲ詳論細議シテ上聞スルヲ如此御採用アルニ於テハ速
ニ太政廳建造ノ規畫諸官省布置ノ体裁及ヒ經費辦給ノ
目途等更ニ之ヲ審議シテ上覽ニ供セントス

大
雅
省